

## 民間委託は誰のため？

行政サービスはどこへ向かおうとしているのか、目が離せません  
～給食・学童保育・図書館・公民館

3月の市議選後の議会構成を背景に、一気に行革が進みそうな状況です。

行財政改革は本来、市民のために行政の質を高める目的で行うものであり、単純なコストカットの手段ではありません。「行革」というと、もれなく「民間委託」がくっついてくるのは問題です。行政は「新たな運営方式」という形で業務見直しを提案するようになりました。「民間委託」とずばりとは言いにくいやり方です。

精度の高い行政運営にしていくためには、見直しは常に必要です。役所の中だけではなく、市民の視線も入れながら、市民と行政が共にこれからの公共サービスを考えていく必要があります。

しかしこの間の状況を見ると、小学校給食調理については、労使間の合意のみで事をどんどん進めています。学童保育は親や指導員も入った協議会で話し合いをしていますが、やはり労使合意に重きが置かれています。

貫井北町地域センターの運営については、公民館運営審議会と図書館協議会に諮問され7月に答申が出ました。同時並行で、官製NPOの設立が進められました。この地域センターの運営は市民協働の先進事例として進めようとしていて、コストカットの行革路線の発想ではないようですが、あまりにテンポが早い進行で納得できない市民も多くいます。

今後は公立保育園の運営見直しもされそうです。

運営見直しの際にとりわけ重要なのは、1)市民、特に当事者の意見がどれだけ反映されているか、2)市民参加条例に則る進め方か、3)財政効果の計算が適切か、といった点であると考えます。その上で、一番大事なものは、その事業の当事者（特に子ども）にとって、本当に適切な選択であるかどうかということ、未来を見据えて検討すべきです。

(片山かおる 市議会議員)



武蔵小金井駅の北、線路沿いに西へ向かい新小金井街道と交差するあたりに現在建設中の貫井北町地域センター。開館は来年度の予定。建設実施計画の概要版は、市のホームページで見ることができる。  
<http://www.city.koganei.lg.jp/kakuka/shogaigakushubu/kouminkan/info/kihonsekkeigaiyouban.html>

小金井の行政サービスの形態が変わろうとしている今、市にお任せにせず、主体的にかかわっている、あるいは関心をもって動向を見守る市民はおおぜいいます。

## ●小学校給食

2013年9月。この2学期から小金井市の小学校給食は9校中5校が民間委託された。

第3次行財政改革の名の下に組合との話し合いが数年続けられていたが、4月下旬ついに労使合意した。秋の委託を急ぐためか、保護者への知らせと説明会実施は5月上～中旬、6月議会への補正予算案提出、7月にプロポーザル、8月委託先決定・引継ぎ、とあまりにも急なスケジュール。給食の質の維持、食の安全性を考へての委託とは到底考えられない、財政効果を狙うだけの利用者置き去りの拙速な委託案であった。

保護者はこの間、手をこまねいていたわけではない。むしろ立ち上がり奮闘した。市内9校の親のネットワークを持つ『子どもと未来を守る小金井会議』と長年小金井市の学校給食の良さとあり方を提案してきた『小金井の給食を守る会』のメンバーが、民間委託についての勉強会を2回実施し、6月議会には6つの陳情(\*)を提出した。内2つの陳情は署名を実施、たった5日間ほどで約2500筆もの署名が集まった。これらの陳情の結果は5つが採択、1つは継続審議となった。

補正予算が本会議で可決され、9月の民間委託は決まった。しかし陳情により、学校給食とはどうあるべきかの保護者や市民の声を議会へ届け、議論を深めたことは民間丸投げの安易な民間委託を防ぐことにつながり、非常に意義があったといえる。

民間委託は今まさに始まったばかり。陳情採択で勝ち得た市民参加を足がかりに、これからの学校給食のあり方を市と共に考え作り上げていくしかないだろう。

山内美穂／前原町

## ●学童保育

2013年6月、市当局と労働組合が「学童保育業務の総合的な見直し」と銘打って、労使交渉をはじめました。

「総合的な見直し」とは、まず現行の開所時間 朝8時30分～18時を、朝8時～19時とする時間延長です。そのほか、障がいのある児童の受け入れの拡充、広場事業、三期休業中の一時保育などがあります。

サービスの拡充には現状よりコストがかかりますが、小金井市はお金をかけないでそれを実現するために、東京都が「民営」の学童にだけ大型の補助金を出す「都型学童事業」を踏まえて運営形式を見直すことで、8月に労使合意しました。しかし民間等への委託は、そう簡単なものではありません。学童保育所は子どもたちが毎日通う場所ですから、委託後も彼らが楽しく安心して過ごせるようにしなければなりません。そのためには、委託の形態は指定管理か業務委託か、他市で実際に受託している事業者の調査、運営基準の見直し等々課題が山積しています。

これらの課題について、利用者・指導員・担当部課長で構成している小金井市学童保育所運営協議会でしっかりと話しあっていくことが必要です。また、市の開催する説明会は報告会にすぎないとの指摘もよくなされます。より多くの利用者を中心とした市民の意見を反映させるためにも、意見交換の場を設けることがたいせつだとおもいます。

原島康晴／中町

(\*)6つの陳情

- ①市民参加による学校給食の指針の実施プラン検討委員会の設置を求める陳情書 ⇒全会一致採択
- ②小学校給食調理業務民間委託について、十分な情報公開と説明を求める陳情書 ⇒委員長採決により採択
- ③小学校給食調理業務の民間委託化のプロポーザルに関する陳情書 ⇒全会一致採択
- ④「おいしくて安全な給食のまち」宣言を求める陳情書 ⇒賛成多数採択
- ⑤給食調理業務において直営職員と委託先職員の交流を求める陳情書 ⇒全会一致採択
- ⑥学校給食の「新しい経営方法」の検討に財団法人設立を加えていただくことを求める陳情書 ⇒継続審議

ご存知でしたか？  
小金井には、市民有志で運営する  
たからものような地域文庫があることを。

## ●こごうちぶんこのこと

地域文庫「こごうちぶんこ ことりのへや」は2000年より地域文庫として活動しています。はじまるきっかけは児童図書館員のパイオニアと呼ばれた小河内芳子さん（こごうちよしこ／1908～2010）が24年間小金井に暮らし、引越される時に2000冊近い児童書を図書館や文庫、児童図書について考えてきた仲間達に遺していきました。その中の800冊余を譲り受けた小金井市の有志が「こごうちぶんこーことりのへや」を開きました。1年は東町、その後中町1丁目の山本邸で1年半、文庫として本の貸し出しや、読み聞かせ、工作など子どもたちを集めて楽しく活動してきました。

2013年1月に文庫を移転しなければならなくなり、一度は閉鎖の話もでしたが、世話人や通っていた保護者、新しく世話人になりたいと思っている方が中心となり、移転先を探し、この度中町4丁目の新里邸にお部屋を借り、再オープンすることができました。先日の第1回目はブログやフェイスブック、口コミで告知し、未就園児や幼稚園くらいの親子を中心に20組、お部屋いっぱいになりました。

まだまだ文庫を求めている人は多くいます。公共サービスにはない文庫の持つ可能性をこれからも考えて活動していきたいと思っています。



横須賀雪枝／中町

こごうちぶんこ ことりのへや

場所：小金井市中町 4-2-31(新里方)

<http://kogouchibunco.blogspot.jp>



## 市民自治こがねい運営委員会 檜原村スローライフツアーの報告

東京の奥座敷で歴史と文化と農  
の香り豊かな暮らしを体験して、  
スローな生き方を捉え直しました！



### 原発と対極にある村

～檜原村・湯久保の暮らし～

8月26日、9名の参加者と多摩地域の中で唯一の村、檜原村の湯久保に行ってきた。村議の丸山さんに案内してもらいながら、古民家活用、すずの大豆栽培者の高橋ハツエさんのお話、在来種のムラサキ草栽培など盛り沢山の見学。

すずの大豆の名前の由来になっている、山の中の「すずの御前神社」をまず一登りしながら見てきたのは、風呂も家も自分で作った人や、段々畑のすずの大豆畑、かつてこの地域で盛んだった養蚕で屋根裏の造りが独特な古民家は交流拠点として活用されていることなど。すずの大豆の他に、ゆずの木も見せてもらったが、今は手入れをしておらず伸び放題で収穫をしていないと説明するハツエさんが「自然は丁寧に手入れをしないとすぐ手が付けられなくなるのよね」と言う。

湯久保の暮らしは自然と共にある。それは自然ととも丁寧に向き合う事なんだと思った。原発とは対極にある暮らし方。人間は、自分達で風呂や家まで作れて、食べる物も、暮らしに必要な物のほとんどは自分達の手で生みだせる、それは決して簡単な事ではないけれど、人間ってこんなにたくましくて、なんでも出来るんじゃないかって思った。私（達）が原発に頼ってきたのは、自分達の暮らしは自分達で作出す機会を奪われ、自信をも奪われてきたからじゃないか？檜原村で人間の本来のたくましさ、豊かな自然と、丁寧に暮らし方をみて、私はなんだかとても自信を取り戻して帰ってきた。

あくつようこ／前原町



## 「2013 参院選」をふりかえって

～厳しい結果だからこそ、希望の感じられる政治を創っていかなくちゃ！

7月21日投開票の参議院選挙はとても厳しい結果でした。投票率は52.61%で、前回の参院選から5.3%、昨年の衆院選からは6.7%も低下し、政党政治への期待や投票意欲が急激に失われていることをハッキリと表わしています。その結果、相対的に得票率が増えたに過ぎない自民党が過半数の議席を得ました。景気雇用対策への関心の一方で争点から外された、憲法改悪や原発再稼働、TPP参加など、国民の多くが支持していない方向へと向かっていくことが危惧されます。

そのような中で、私を含む市民自治こがねいの少ないメンバーは、国政にも新しい政治勢力を創っていこうと「緑の党」のチャレンジを積極的に担い、あるいは応援しましたが、議席獲得に至らず残念な結果となりました。10人の候補者と約6000万円の供託金という高いハードルはクリアしたのですが、マスコミ報道からの排除は予想以上で、それを越えるような魅力やパワーが十分ではありませんでした。けれども、候補者の三宅洋平さんがネット選挙の活用などで比例区最多の17万票を獲得して注目を集めるなど、この参院選が日本の緑の党にとって大きな一歩となったことは確かです。小金井では、1323人の方が緑の党に投票してくれました。全国的な得票率0.86%に対して2.5%と高いレベルです。ありがとうございました。

漢人明子（緑町／緑の党運営委員）

## カエルハウスオープンデイ はじまります

今まで平日の昼間なかなか開けられなかったカエルハウスですが、10月から開いている時間を増やします！

市政相談、映画上映、きょうの夕飯のおかず...など、各種相談お受けします。

もちろん相談ごとがなくても、お茶でも飲みながらひと休み、どうぞ気軽にお立ち寄りください。

※詳しい日程は Google や yahoo で「カエルハウスカレンダー」を検索するか、

<http://katayamakaoru.net> まで

◇片山かおるのよろず相談

（できる範囲でご相談お伺いします）

10/9（水）13:00～17:00

10/18（金）13:00～16:00

10/23（水）13:00～17:00

10/28（月）13:00～17:00

※日程変更の場合もあります。カエルハウスカレンダーまたはお電話（042-316-1511）でご確認ください。

**「市民自治こがねい」は  
わたしたち市民の力で小金井市を変えたい！  
市民の想いや考えを  
福祉やまちづくりに生かしたい！  
人権が尊重され、自治が息づく  
小金井市にしたい！**

そんな考えの市民が集まり  
**片山かおる**さんを市議会に送り出し  
小金井のさまざまな問題を話し合っています。

どなたでも気軽にご参加ください。

※詳しくはホームページをご覧ください。  
<http://www.ne.jp/asahi/siminjiti/koganei/>

★会員になってください★  
会費 1口=3000円/年（できれば2口以上）  
・賛助会費 1口=1万円/年  
・ニュースカンパ 1口=1000円/年  
・郵便振替 00130-6-352041

## ☆バザー用品募集

小金井公園でのなかよし市民まつり（10月19・20日）に向け、バザー用品を募集しています。

ご協力いただける方は、10月14日（月祝）11:00～16:00の間にカエルハウス（中町3-10-10-103 農工大通り沿い）までお持ちください。また、当日のお手伝いも大歓迎です。

連絡はカエルハウス（TEL:042-316-1511）まで。

**編集後記** 朝晩は肌寒くなってきました。あまりにもすとんと秋になってしまったので、なんだか感覚がおいてけぼりです。そういえば武蔵小金井南口第2地区の計画もまたそろ動き出したみたいですが、周辺の住民をおいてけぼりにしないで～と願います。（ys）